

## 名著 100 冊の紹介を通じて効果的なメディアデザインを明らかにする研究交流会

総合政策学部 1 年 柏野尊徳

s10194tk@sfc.keio.ac.jp

### 1：活動の名称と概要

「名著 100 冊の紹介を通じて効果的なメディアデザインを明らかにする研究交流会」

企画：名学術書 100 選メディアデザインプロジェクト

日時：2010 年 9 月 5 日 13：00～6 日 12：00

於：川崎グランドホテル

参加人数：8 人

### 2：参加者一覧

総合政策学部1年 柏野尊徳

環境情報学部1年 瀬下翔太

環境情報学部1年 太田知也

総合政策学部1年 御手洗拓真

総合政策学部1年 石井達也

総合政策学部1年 田村佳世

総合政策学部1年 正能茉優

総合政策学部1年 西久保有里

### 3：研究交流会の目的

SFC には文理を問わず、様々な授業や研究会が存在する。しかし、その多様性が故に、初学者にとっては何から学び、またどのように学べばよいのか、すなわち「はじめの一步」がわかりにくい部分がある。

そこで、各ジャンルを学ぶ上で足がかりとなるような、名学術書を紹介する

(1)インターネット書評番組の作成・放送と(2)小冊子作成・配布(2011 年度以降の SFC 入学生対象予定)を含めたメディアデザインのあり方を検討するため、今回の研究交流会を開催した。

### 4：活動内容◆プロジェクトのゴールである小冊子作成について議論を深めた

1.コンセプト：「一年後に後悔しないための 20 冊」

先輩から後輩へ送るメッセージとして、自分が読んでおけばよかったと考える20冊を紹介する形で書評を書き、まとめる。

2.分量：紹介冊子1冊辺り2-4ページ、書籍の概要と詳細を分ける

3.サイズ：A5版

4.コンテンツ：書評(20冊分程度)、(紹介冊子の)表紙画像

5.配布対象：新入生の1割程度。

6.その他

授業／履修に関する情報を掲載する案も出たが編集の都合上、現時点では割愛する予定。

※小冊子に関する議論の他には、読書会や読書講座、ならびに番組放送を実施した。

## 5：今後の展望

月1回の読書会・勉強会と、月1回の書評番組を通じて、どのようなメディアデザインが最も効果的なのかを研究する。途中経過は2010年11月22・23日開催のORFでの発表も予定しており、2010年3月には集大成として名学術書を厳選した小冊子を作成・配布する。

## 6：謝辞

本活動に対する指導と助言を頂きました慶應義塾総合政策学部・堀茂樹教授、円滑な会議運営と快適な宿泊環境をご提供頂いた川崎グランドホテルの方々、ならびに湘南藤沢学会のご担当者様および「シンポジウム・研究ネットワークミーティング基金」のご支援に対して、改めて感謝申し上げます。

## 7：参考文献

※以下は合宿内で行った読書講座にて扱った文献リストである

Adler, Mortimer J, and Doren, Charles V. 『本を読む本』 外山滋比古・槇未知子訳、講談社、1997年。(原書名：How to Read a Book, 1940)

Schopenhauer 『読書について 他二篇』 斎藤忍随訳、岩波書店、1983年。

(原書名：Parerga und Paralipomena: kleine philosophische Schriften, 1851)

内村鑑三 『後世への最大遺物・デンマーク国の話』 岩波書店、1976年。

木下是雄 『レポートの組み立て方』 筑摩書房、1994年。

木下是雄 『理科系の作文技術』 中央公論新社、1981年。